



メンテナンス 作業マニュアル

A・標準メンテナンス

P1~P10

B・フルメンテナンス

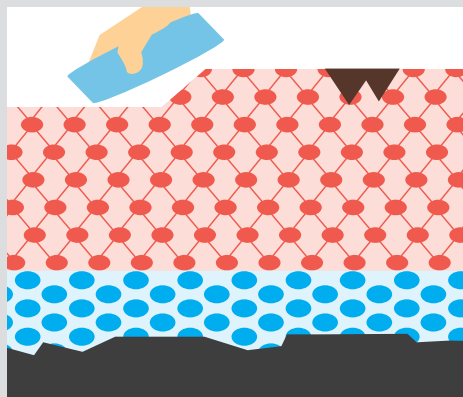
P12~P23

プレミアム仕様

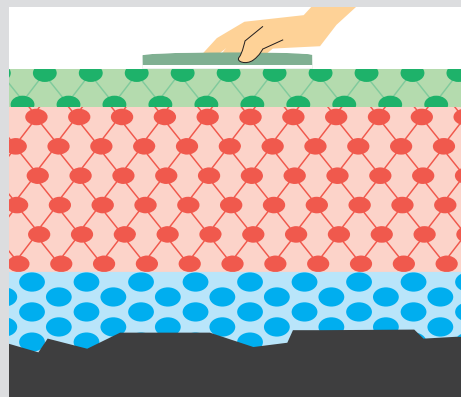
P25~P26

A 標準メンテナンス

A・標準メンテナンスはVP326被膜の表面を整え、新鮮なECOプラスレジン被膜に入れ替えます。



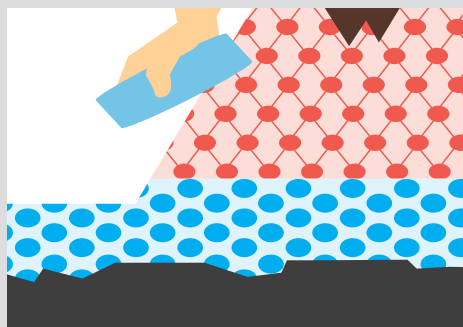
Eクリーナーでコーティング被膜を洗浄し



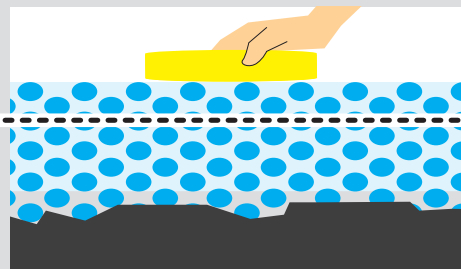
表面と分子構造が同じ
ECOプラスレジン被膜を補充します。

B フルメンテナンス

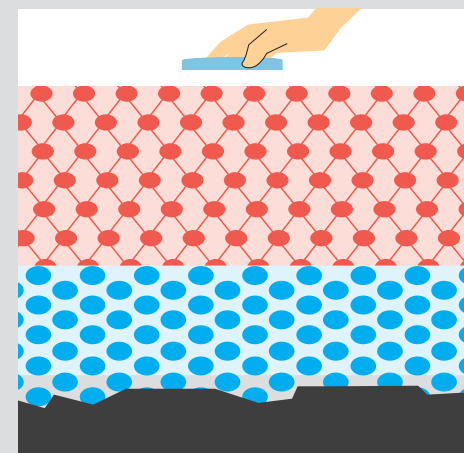
B・フルメンテナンスは下部のプライマーガラスを整え、新鮮なVP326被膜に入れ替えます。



爆ツヤ(爆白ONE)でVP326を洗浄し



ガラス被膜を補強してから



新鮮なVP326被膜に入れ替える



A・標準メンテナンス

A・標準メンテナンスで使用するツール

STEP.2 Eクリーナーで前処理
STEP.3 ECOプラスレジン

- Eクリーナー(1.7L)
- スポンジ 青
- ECOプラスレジン
- ECOレジン用スポンジ
- レジンクロス



●KeePer
チェックライト



●快洗Taoる



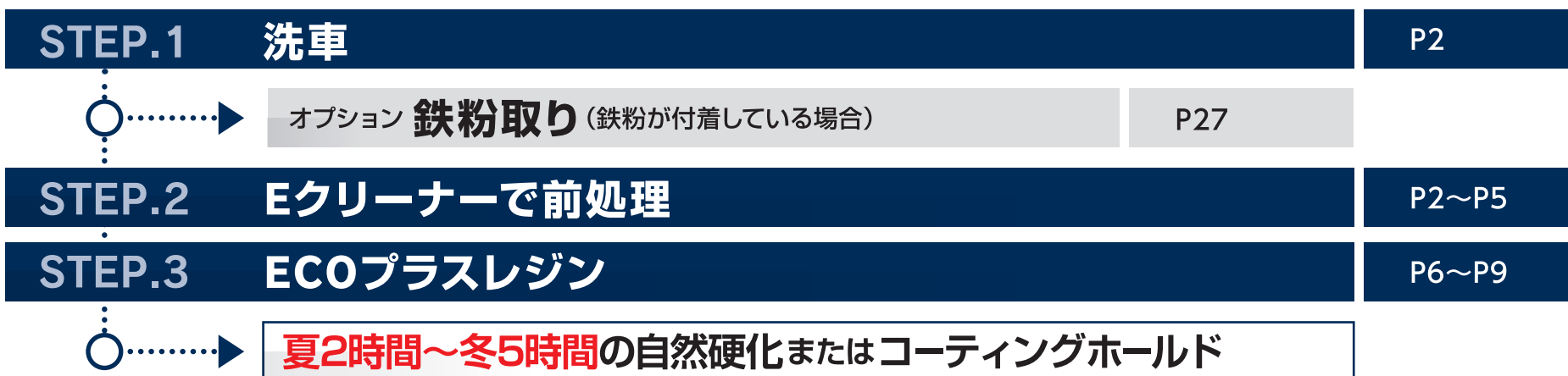
●キーパークロス



●EXチェックボード



A・標準メンテナンス 作業の流れ



STEP. 1 洗車

① 手洗い又は、洗車機で水洗いをする



STEP. 2 Eクリーナーで前処理

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

① Eクリーナーを逆さまにしてよく振る。



注意

- 小分けボトルを逆さまにして、5回以上よく振ってください。
- Eクリーナー（1.7L）を小分けボトルに移し替える際も、よく降ってから移し替えてください。



② 水で湿らせ固く絞った青スポンジにEクリーナーを適量付ける。

*太線1本



STEP.2 Eクリーナーで前処理

③ Eクリーナーを塗り広げて、 クロス方向に軽くスポンジを動かして、汚れを取る。

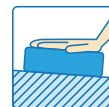
👉 参考

- 1スパンをボンネット半分程度の大きさで、隙間なくフチまで塗り広げる。
- 汚れが多い場合は、事前に爆ツヤもしくは爆白ONEで洗浄し、その後洗車をし、よくすすいだ後に「Eクリーナー」の作業を行う

*塗り広げる



スポンジの持ち方。



*汚れを取る



スポンジの持ち方。



④ ボディ全体に②③を繰り返す。



作業の流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→
左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→
右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→
リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→
左前ドア→左フロントフェンダー→
フロント周り



STEP.2 Eクリーナーで前処理

5 エアガンで、隙間に入った水滴、粉を軽く吹き飛ばす。

ポイント

- ワイパー廻り
- タイヤ・ホイール
- バイザー
- 給油口
- アンテナ
- ドアミラー
- ドアノブ
- フロントグリル



6 キーパークロスで拭き取る。 窓ガラスに付いたEクリーナーは、 快洗タオル(赤)で拭き上げる。



注意

- 白い粉が出やすいので気をつけて拭き上げる。



作業の流れ

右前ルーフ→エンジン掛け→右前窓→
右前ドア→右後ルーフ→右後窓→
右後ドア→右リアフェンダー→リア周り→
左リアフェンダー→左後ルーフ→左後窓→
左後ドア→左前ルーフ→左前窓→左前ドア→
左ボンネット→左フロントフェンダー→
フロント周り→右ボンネット→
右フロントフェンダー

※脚立有りの場合はルーフを先に仕上げる。



STEP.2 Eクリーナーで前処理

7 ボディの内側に付いた

Eクリーナーの白い粉をキレイに拭き取る。

⚠ 注意

- ボディの内側は専用の快洗タオル(白)を用い、キレイな面を常に使用する。

👉 参考

- ボディの内側などにゴミや枯葉などがある場合は取り除く。



8 水滴、拭き残しがないか確認する。



STEP. 3 ECOプラスレジン

① 「ECOプラスレジン用スポンジ」に「ECOプラスレジン」を適量つける

⚠ 注意:

- ECOプラスレジンは、開封後も冷蔵(凍)保管で36時間後も使用可能です。

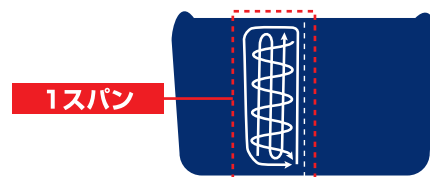
*最初は12滴

*以降は6滴



② ボンネット1/4位の面積に
タテヨコに隙間なく
フチまで塗り広げる

*スポンジの動き



*スポンジの持ち方
スポンジを軽く掴むように持つ



👉 参考

- 「ECOプラスレジン用スポンジ」の動きが重く感じたら「ECOプラスレジン」を足してください。
- 1スパンの面積をボンネット1/4よりも広くしないでください。(被膜として必要な厚みが確保できません)

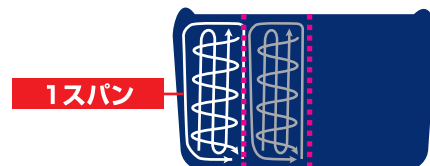
③ となりのスパンに、

①～②の作業を繰り返す

👉 参考

- となりのスパンと少し重なるようにして隙間なく塗り広げてください。

*スポンジの動き



STEP.3 ECOプラスレジン

④ 1枚目の乾いた「レジncクロス」で クロスの面を換えながら2回拭く

👉 参考

- 「ECOプラスレジン」が乾く前に速やかに拭き上げてください。
- 拭き取りにくくなったら、「レジncクロス」を換えてください。
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

*クロスの動き



*クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む



⑤ 2枚目の乾いた「レジncクロス」で クロスの面を換えながら2回仕上げ拭き

👉 参考

- クロスは面を換えて拭き上げてください。
- 「レジncクロス」はどちらの面を使用しても仕上がりに差はありません。

*クロスの動き



⑥ 1パネル毎に拭き残しがないか確認

※ 「Keeperチェックライト」の使用を推奨

拭き残しがあれば、「レジncクロス」で仕上げ拭き

👉 参考

- エコプラスレジンは、拭き残しが固まって拭けなくなるため(クリーナーで取れる)濃色車・淡色車でも容易に拭き残しが確認できる「Keeperチェックライト」の使用を推奨してます。
- 拭き残しがなければ、余計に拭く必要はありません。



「チェックライト」で塗装面を照らして、ライトの映り込みを見ながら拭き残しをチェックする

STEP.3 ECOプラスレジン

7 ボディ全体に①～⑥の作業を行う

⚠ 注意:

- エンブレムやドアノブなど、細かな部分に「ECOプラスレジン」が入り込まないように注意してください。
- もし「ECOプラスレジン」が隙間に入った場合は、エアーガンで吹き飛ばしてください。

エコプラスレジンコーティングの流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→
左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→
右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→
リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→
左前ドア→左フロントフェンダー→
フロント周り



※作業の途中で、拭き取りにくくなったら「レジンクロス」を換えてください。

※作業の途中で、塗り広げにくくなったら「ECOプラスレジン用スポンジ」を換えてください。

8 仕上がり確認

👉 参考

- ボディは「チェックライト (推奨)」を使用し、拭き残しがないか確認。拭き残しがあれば、乾いた「レジンクロス」で仕上げ拭き。窓、レンズ類、樹脂パーツは、水で固く絞った「キーパークロス」で拭き上げます。



STEP.3 ECOプラスレジン

⑨ 屋内で夏2時間～冬5時間の自然硬化

もしくはコーティングホールドの作業を行う

👉 参考

- EXキーパー A・標準メンテナンスは、すべてを施工した後、水や雨に濡れない環境ならば「夏2時間～冬5時間」の自然硬化して完了です。
- すぐに室外に出して雨などに濡れる可能性がある場合は、施工後10分間置いてから「コーティングホールドの作業」を行い、完了です。



コーティングホールドを行う場合

① 屋内で夏2時間～冬5時間の自然硬化、 もしくは「コーティングホールド」の作業

👉 参考

- コーティングホールドを施工した場合、すぐに雨に濡れても大丈夫です。

コーティングホールド使用ツール

(左)コーティングホールド、コーティングホールド用蓄圧式スプレー、キーパークロス
(右)純水、純水用蓄圧式スプレー、快洗Taoる



コーティングホールドの流れ

EXキーパー施工後、必ず「10分間置いてから」作業する

- ① 「コーティングホールド」をボディ全体に噴霧
- ② 「コーティングホールド」を噴霧した「キーパークロス」でボディを拭き押さえる
- ③ ボディ全体に蓄圧式スプレーなどで「純水」をたっぷりかける
- ④ 「快洗Taoる」で、ボディにかけた「純水」を拭き上げる
- ⑤ 窓、レンズ類、樹脂パーツを、水で固く絞った「キーパークロス」で拭き上げる
- ⑥ 水滴残りがなければ確認

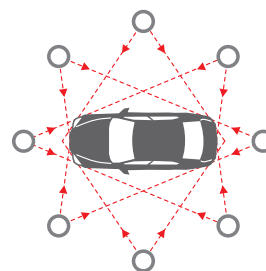


② 最終確認

もう一度、全体がしっかりコーティングがされているか、拭き残しがないか、いろいろな角度から確認します。

👉 参考

- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。



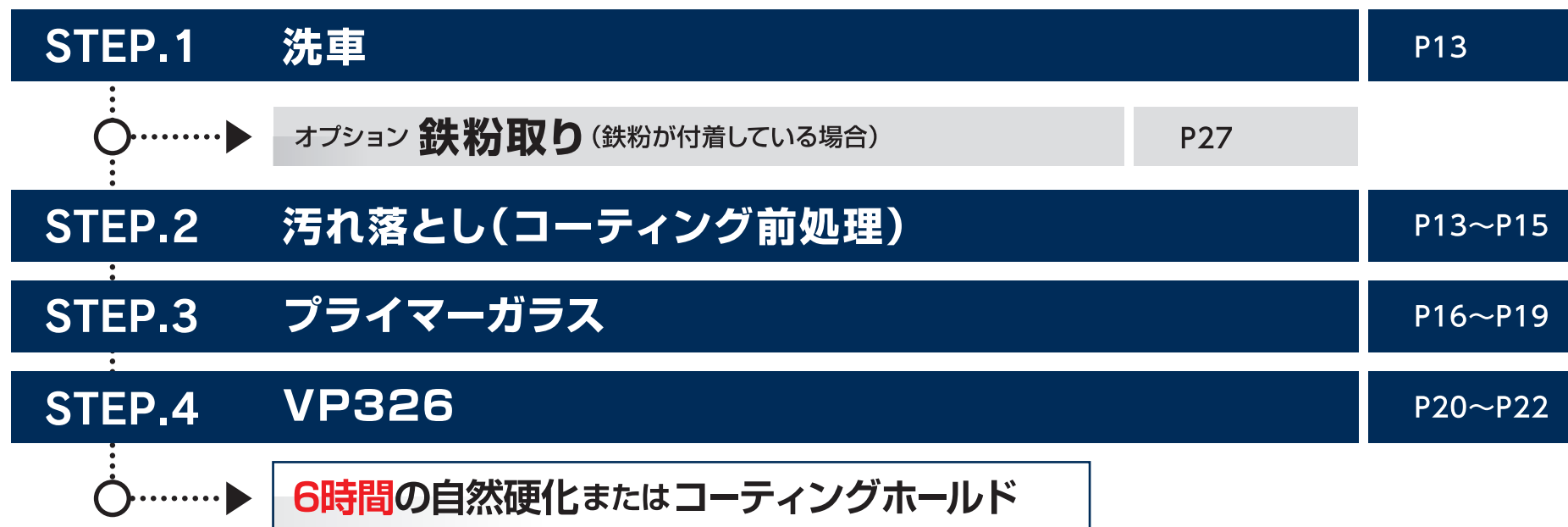


B・フルメンテナンス

B・フルメンテナンスで使用するツール

<p>STEP.2 汚れ落とし(コーティング前処理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●爆ツヤ ●爆ツヤ専用小分けボトル ●スポンジ 青 ●キーパークロス ●快洗Taoる 	<p>STEP.3 プライマーガラス</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プライマーガラス ●スポンジ 黄 ●ダイヤクロス ●蓄圧式水スプレー 	<p>STEP.3 VP326</p> <ul style="list-style-type: none"> ●VP326 ●マイクロスポンジ ●EXクロス ●KeePerチェックライト ●EXチェックボード 
--	---	--

B・フルメンテナンス 作業の流れ



STEP. 1 洗車

① 手洗い又は、洗車機で水洗いをする



STEP. 2 汚れ落とし工程

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

① 「爆ツヤ」を「スポンジ 青」に適量取る

*太線1本

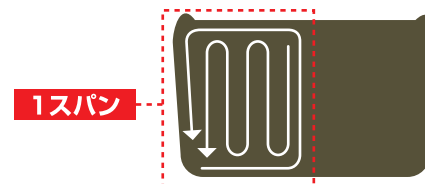


② ボンネット半分位の面積に

一定方向に隙間なく

フチまで塗り広げる

*塗り広げる時の
スポンジの動き



*塗り広げる時の
スポンジの押さえ方
支えるように軽く押さえる。



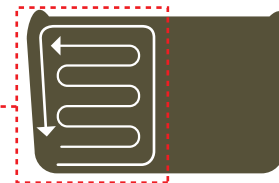
STEP.2 汚れ落とし工程

③ 3スパンまで①②の作業を繰り返す



④ 1スパン目に戻って、 塗り広げた塗装面を 軽くこする(汚れを動かす)

*軽くこする時の
スポンジの動き



*軽くこする時の
スポンジの押さえ方
支えるように軽く押さえる。



⑤ ボディ全体に①～④の作業を行う

⚠ 注意:

- 作業中ボディが乾きそうな時には、水をかけて乾かないようにすると作業が早く済みます。(乾いても塗装に害はありません)
- ガラス面に撥水加工されているお車の場合、撥水効果が落ちることがあります。液ダレしないように注意してください。



作業の流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→
左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→
右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→
リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→
左前ドア→左フロントフェンダー→フロント周り



STEP.2 汚れ落とし工程

⑥ 「爆ツヤ」をしっかり洗い流す

👉 参考

- 隙間や細かい部分を特にしっかりと洗い流します。



STEP. 3 プライマーガラス

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

炎天下を避け、日陰でボディを冷まして作業をしてください。

⚠ 注意:

- 天下やボディが熱い状態で施工すると急激な反応により、塗りムラや拭きづらくなるといった現象が出る場合があります。ボディが熱い場合は、予め水をかけるなどして、よく冷ましてから施工してください。



① フロントガラスの上部に タオルを当てておく

👉 参考

- ケミカルを含んだ水がフロントガラスに垂れないようにタオルを当てておく。もし「プライマーガラス」がガラス面についてもクロスで拭けば取れます。



② 水に湿らせ固く絞った「スポンジ(黄)」に 「プライマーガラス」をスプレー

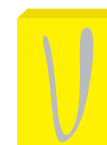
👉 参考

- 飛散した「プライマーガラス」が付着しないよう、車に背を向けて、スプレーノズルと「スポンジ 黄」を近づけてスプレーします。

*最初は2往復
(Wの字)



*以降は1往復
(Vの字)



STEP.3 プライマーガラス

- ③** ボンネット半分位
一定方向に「隙間」なく
フチまでしっかり塗り広げる。

参考

- スポンジ（黄）がボディの水分を含んできたら、絞ってダイヤモンドキーパーケミカルを足してください。
- スポンジの動きが重く感じたら「プライマーガラス」を足してください。
- 1スパンの面積をボンネット半分の面積よりも広くしないでください。（被膜として必要な厚みが確保できません）

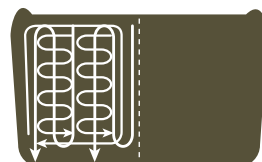
*スポンジの動き



*スポンジの持ち方
スポンジを支えるように
軽く押さえます。



- ④** ③で塗り広げた範囲を
クロス方向にすり込み、
ガラス被膜を定着させる



*スポンジの持ち方
手のひら全体でスポンジが
半分へこむ位の力で押さえる



- ⑤** 1枚目の固く絞った「ダイヤクロス」で
拭く

参考

- ケミカルが硬化する前に拭き上げてください。

*クロスの動き



*クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む



STEP.3 プライマーガラス

⑥ 2枚目の乾いた「ダイヤクロス」で仕上げる

👉 参考

- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

*クロスの動き



*クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む



⑦ ボディ全体に①～⑥の作業を行う

⚠ 注意:

- 常にボディが濡れた状態で作業をしてください。
ボディが乾きそうなときは水スプレーを使ってボディを濡らしてください。
- ウィンドウガラスの水滴は乾く前に拭き取ります。



作業の流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→左前ドア→左フロントフェンダー→
フロント周り

STEP.3 プライマーガラス

8 エアーガンでタオルで拭けない 「隙間」の水を飛ばす

👉 参考

- ドアミラー、ドアノブ、ワイパー周り、バイザー内側、給油口、アンテナ、ホイール・タイヤ、フロントグリルは、特に念入りに行います。



9 ボディ、窓、ステップ、 ボンネット裏の水を拭き取る

⚠️ 注意:

- ステップ、ボンネット裏は砂やホコリ等が付着するので、別のタオルを使用してください。窓ガラス、ボディで使用するとキズの原因になります。

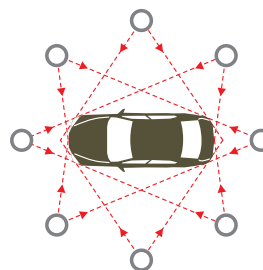


10 拭き残しなどを確認

施工を終えたら、いろいろな角度から施工車を見て、拭き残しがないか確認します。

👉 参考

- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。



STEP. 4 VP326

① 「マイクロスポンジ」に 「VP326」を適量つける

⚠ 注意:

- VP326開封後、6時間で使用禁止

*最初は8滴

*以降は6滴

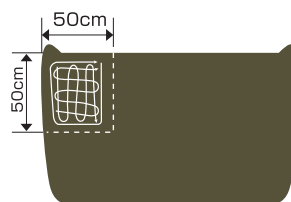


② ボディの50cm四方の面積に タテヨコに隙間なく フチまで塗り広げる

👉 参考

- 1スパンを50cm四方の面積よりも広くしないでください。(被膜として必要な厚みが確保できません)
- 4スパン塗り広げてから拭き上げます。

*スポンジの動き



*スポンジの持ち方
スポンジを
軽く掴むように持つ



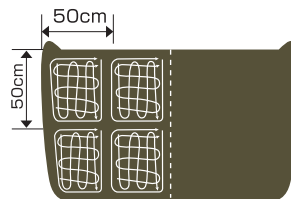
③ ボンネット半分位の面積に

①②の作業を繰り返す

👉 参考

- とんりのスパンと少し重なるようにして隙間なく塗り広げてください。

*スポンジの動き



STEP.4 VP326

4 1枚目の乾いた「EXクロス」で クロスの面を換えながら2回拭く

👉 参考

- 「EXクロス」は乾いた状態で使ってください。
- 「VP326」が乾く前に速やかに拭き上げてください。
- 拭き取りにくくなったら、「EXクロス」を換えてください。
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

* クロスの動き



* クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む



5 2枚目の乾いた「EXクロス」で クロスの面を換えながら2回拭く

👉 参考

- クロスは面を換えて拭き上げてください。
- 「EXクロス」はどちらの面を使用しても仕上がりに差はありません。
- 拭き取りにくくなったら、「EXクロス」を換えてください。

* クロスの動き



6 1パネル毎に「Keeperチェックライト」を使用し、 拭き残しがないか確認。

拭き残しがあれば、3枚目の「EXクロス」で仕上げ拭き

👉 参考

- 拭き残しが無ければ、余分に拭く必要はない。



STEP.4 VP326

7 ボディ全体に①～⑥の作業を行う

⚠ 注意:

- エンブレムやドアノブなど、細かな部分に「VP326」が入り込まないように注意してください。
- もし「VP326」が隙間に入った場合は、エアージェンで吹き飛ばしてください。
- VP326は隣のパネルにはみ出さないように塗ります。
(時間が経ってから重ね塗りするとムラが出る場合があります。)

👉 参考

- 「VP326」が足りない場合は、「VP326パウチ」を使用します。(「VP326パウチ」1枚で1パネル分)
- ゴム・プラスチック部など、ボディ以外のパーツに付かないように塗布してください。(付いても害はありません)
(推奨) マスキングテープで養生すると施工しやすくなります。



VP326
作業の
流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→
左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→
右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→
リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→
左前ドア→左フロントフェンダー→フロント周り

* マイクロスポンジとEXクロスは、
6～7パネルに1回程度交換する。



8 仕上げ拭き

👉 参考

- ボディは「KeePerチェックライト」を使用し、拭き残しがいないか確認。
拭き残しがあれば、乾いた「EXクロス」で仕上げ拭き。
窓、レンズ類、樹脂パーツは、
水で固く絞った「キーパークロス」で拭き上げます。

使用ツール
キーパークロス



コーティングホールドを行う場合

① 屋内で6時間の自然硬化、 もしくは「コーティングホールド」の作業

👉 参考

- コーティングホールドを施工した場合、すぐに雨に濡れても大丈夫です。

コーティングホールド使用ツール

(左)コーティングホールド、コーティングホールド用蓄圧式スプレー、キーパークロス
(右)純水、純水用蓄圧式スプレー、快洗Taoる



コーティングホールドの流れ

EXキーパー施工後、必ず「10分間置いてから」作業する

- ① 「コーティングホールド」をボディ全体に噴霧
- ② 「コーティングホールド」を噴霧した「キーパークロス」でボディを拭き押さえる
- ③ ボディ全体に蓄圧式スプレーなどで「純水」をたっぷりかける
- ④ 「快洗Taoる」で、ボディにかけた「純水」を拭き上げる
- ⑤ 窓、レンズ類、樹脂パーツを、水で固く絞った「キーパークロス」で拭き上げる
- ⑥ 水滴残りがなければ確認

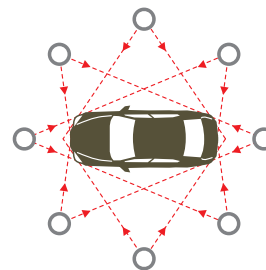


③ 最終確認

もう一度、全体がしっかりコーティングがされているか、拭き残しがないか、いろいろな角度から確認します。

👉 参考

- 1m離れたところから角度を変えてチェックします。





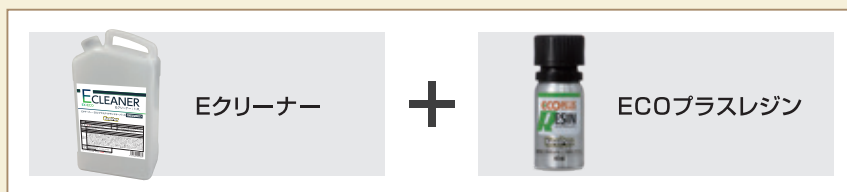
EXキーパー プレミアム仕様

メンテナンス作業マニュアル

プレミアム仕様のメンテナンス 施工内容

A・標準メンテナンス

ボディとドア内側のステップ部分に「ECOプラスレジン」を施工します。



B・フルメンテナンス

ボディとドア内側のステップ部分に「プライマーガラス」・「VP326」を施工します。



さらに、窓ガラス・レンズ・ホイール・樹脂パーツの被膜を入れ替えます。

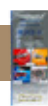
窓ガラス

超撥水ウィンドウコーティング



レンズ・バイザー

レンズコーティング



ホイール

ホイールコーティング (ダブル)









無塗装樹脂パーツ

樹脂フェンダーキーパー



EXキーパープレミアム メンテナンス仕様 作業の流れ

	[A・標準メンテナンス] ドア内側のステップ部分	[B・フルメンテナンス] ドア内側のステップ部分	超撥水 ウィンドウコーティング	レンズ・バイザー コーティング	ホイールコーティング (ダブル)	樹脂フェンダーキーパー
						
	使用ツール ●Eクリーナー ●ECOプラスレジジン	使用ツール ●プライマーガラス ●VP326 ●爆ツヤ(爆白ONE)	使用ツール ●ウィンドウガラスフッ素 ●ガラスポリッシャーSiC2	使用ツール ●ポリカコート	使用ツール ●ホイールコーティング2 ●ホイールクリーナー	使用ツール ●樹脂フェンダーキーパー
EXキーパー 作業の流れ						
STEP.1 洗車	洗車	洗車	洗車	洗車	洗車	洗車
STEP.2 汚れ落とし 工程	Eクリーナー	爆ツヤ	油膜取り	爆ツヤ	ホイールクリーニング	爆ツヤ
STEP.3 【1層目】 ガラス コーティング	ECOプラスレジジン	プライマーガラス			ホイールコーティング (1回目)	
STEP.4 【2層目】 レジジン コーティング		VP326				樹脂フェンダーキーパー
STEP.5 (コーティング ホールド) 仕上げ			ウィンドウガラスフッ素	ポリカコート	ホイールコーティング (2回目)	(コーティングホールド)

オプション(鉄粉が付着している場合)

鉄粉取り

塗装面に鉄粉が付着している場合のみ
行います



⚠ 注意: 塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

鉄粉取りで使用するツール

- ピュアアップ4
- アイアンイーター
- トラップ粘土 青



STEP.1 | ピュアアップ4

- ① 洗車を行い、濡れた塗装面にピュアアップ4を
ボンネット半分程度にスプレーし
手で伸ばす**



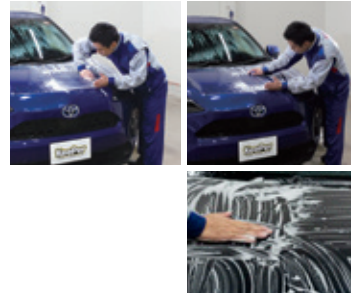
- ② 30~40cm四方を1スパンとし
トラップ粘土(青)でタテヨコに素早くこする**

⚠ 注意

- ピュアアップ4が乾かないように注意してください。

👉 参考

- ボディが乾きそうになったら水をかけてください。
- 鉄粉が取れたか、手で確認しながら作業を行ってください。



- ③ ①~②の作業を
鉄粉の付着している箇所に行う**

⚠ 注意

- 鋭角なプレスラインは、またがないように作業してください。
- 1度地面に落とした粘土は廃棄し、使わないでください。



STEP.2 | 洗い流し

- ① 水で洗い流す**

⚠ 注意

- ピュアアップ4が乾いてごびり付いた場合は、
ファイナル1で擦ると取れます。



多量の鉄粉が付着している場合

用意するもの
●アイアンイーター
(鉄粉除去剤)



①濡れたボディに
アイアンイーターをスプレーする。



②日陰で乾かない程度に
つけ置く。



③洗い流し、
STEP.1~2の作業を行う。